

(様式1)

親子の学び応援講座実践報告書

名 称	下郷町小中学校PTA連携地域講演会	
講座開催日	平成30年6月9日(土)	
会 場	下郷町コミュニティセンター研修室	
参加人数	65名	
実践活動テーマ	思春期を迎える、子どもとのコミュニケーション	
テーマ設定の理由及び実践活動のねらい	家庭教育は、子どもの『自己肯定感』と『生きる力』を育む原点と捉え、南会津教育事務所社会教育主事の先生方のご指導の基、親業訓練シニアインストラクターを長年務めておられる大屋弘子氏のご提案で設定に至ることができた。	
講座及び実践活動内容		
<p>今回講師を務めていただいた大屋弘子先生は、アメリカ・オハイオ州での生活経験を基に、各々の地域で充実した心豊かな暮らしをするためには、家庭教育や周囲の人間関係がいかに大切かを実感され、その体験を踏まえ、1991年より親業インストラクターとしての活動を開始されたとのこと。</p> <p>講演の冒頭で、先生は、人生の醍醐味は、「出会い」と「ご縁」と切り出され、他人との関わり方が大事と話されました。アメリカの臨床心理学者のトーマス・ゴードン博士の理論を基に、子どもにどう「自己肯定感」を持たせるか、どう「自己決定能力」を身につけさせるかを中心に講演いただきました。</p> <p>子どもとのコミュニケーションの重要性、親が一人の人間としての生き方を示す、または、生き方が問われるため、親は模範・お手本を示すことが重要と先生は話されております。</p> <p>子どもが非行に走る傾向としては、①心の居場所がない。②自尊感情がない。③人生の目標がない。④他者から必要とされていない。と分析されております。心豊かに生きる条件として、①～④の内容を、全て「～ない」→「～ある」に変えることが重要と話されております。また、親と子の関係を、出席者に参加型(*ロールプレイ)でご紹介いただきました。ロールプレイの意図は、能動的な聞き方、言葉と心のキャッチボールの大切さを参加者に実感していただきたかったからとのこと。</p> <p>最後に、子どもにたくさんのほめる・ありがとうメッセージを伝えてほしいと話されておりました。</p> <p>〈参加者の声〉</p> <p>○早速、今夜から実践していきたい。</p> <p>○アドバイスをいただいた内容を、今後の親子関係に生かしていきたい。</p>		
〈講演の聴講の様子〉		
〈ロールプレイ1の様子〉		
〈ロールプレイ2の様子〉		
		

